

平成29年度第1回人間文化研究機構経営協議会 議事概要

- 日 時： 平成29年6月21日（水） 14：00～16：02
- 場 所： 自然科学研究機構及び情報・システム研究機構合同会議室
- 出席者： 立本機構長、岩男、榎原、影山、キャンベル、久留島、弦間、小長谷、小松、佐藤（洋）、佐村、武田、平川、長谷川、藤岡、宮崎、望月、山本、吉田の各委員
- 陪席者： 小泉監事、二ノ宮監事、谷口地球研副所長
- 事務局： 監査室長、歴博管理部長、国文研管理部長、国語研管理部長、日文研管理部長、地球研管理部長、民博管理部長、本部事務局総務課長、同企画課長、同財務課長、同施設課長、同企画課課長補佐、同財務課課長補佐、その他関係職員

○ 概 要：

議事に先立ち、機構長から新たに就任した委員及び事務職員の異動者の紹介があった。
また、事務局から、定足数を満たしている旨の報告及び配付資料の確認があった。

議 題：

（議事概要）

（1）平成28年度第4回議事概要について（資料1）

機構長から、平成28年度第4回経営協議会議事概要について、議事概要署名人に確認いただいた旨報告があり、本協議会の同意を得た。

また、機構長から、平成29年度から議事概要への署名を省略することとした旨、報告があった。

（審議事項）

（1）平成28事業年度に係る業務の実績に関する報告書について（資料2）

小長谷理事から、資料2に基づき、平成28事業年度に係る業務の実績に関する報告書について説明があり、審議の結果、了承された。

なお、本件に係る今後の取り扱いについては、機構長一任とすることが了承された。

また、本件に関し、以下の意見等があった。

- ・ 国立大学は文科省から、経営の自由度を高め、時代の変化に的確に対応していくことが求められている。2020年のオリンピック・パラリンピックは、日本の伝統文化の発信をしていく上でまたと無い機会であり、この機会を活用して機構の成果を上げていくことが期待される。
- ・ 機構、機関のブランド化について今後検討して欲しい。機構には研究や技術の蓄積もある。機構長、機関長の人間性みたいなものが見えるように、より革新的に、世界に通用するブランドに育成されていくことを望む。
- ・ 機構職員全体における女性の割合、女性の管理職の割合など具体的な数値目標を明示し、それに向けて進んでいく姿勢が必要である。
- ・ 各機関には一定の割合で女性の職員等がおられるが、女性の教員や研究者を育成するということは、各機関において分野が様々であるため、各機関がそこを意識して文書を作成していただくことが望ましい。
- ・ 女性教員の割合について考える際、学部学生、大学院生、ポストクラスといった現状における若手の分布を考えないといけない。どこに裾野があり、どういう理由で女性比率がピラミッドのように減っていくのかという分析をすることが必要である。
- ・ 機構において、法人評価の俯瞰的な図式ができ、中間評価等についても大きな枠組みができたということは非常に大きい。外部資金については、ブランド力を上げて、一般から

の資金をどのように増やすかということが非常に大きな課題である。

- ・ これまで、謙虚に報告書を作成していたが、今回「Ⅳ」を示したことは評価できる。今後、科研費の獲得に係る成果が財務改善として評価されないことになると、文系は書くものがなくなるのではないか。大型資金獲得のために、チーム編成・プロジェクト形成を支援する取り組みを本部が行うことについては、各機関から見ると、本部が組織することはある種の役割であり、期待するところでもあるため、積極的に進めて欲しい。
- ・ 一般の方が理解できるように、民博における小学生向けの新聞連載記事のような取組をより多く実施していくことが重要である。研究の中身は良いが、そのことを知る人が誰もいないという状況を避ける上でも、機構が中心となって、方法を工夫し、強化していく必要がある。

(2) 平成 28 事業年度決算について (資料 3)

平川理事から、資料 3 に基づき、平成 28 事業年度決算について説明があり、審議の結果、了承された。

(3) 平成 30 年度概算要求について (資料 4)

平川理事から、資料 4 に基づき、平成 30 年度概算要求について説明があり、審議の結果、了承された。

なお、本件に係る今後の取り扱いについては、機構長一任とすることが了承された。

また、本件に関し、以下の意見等があった。

- ・ 歴史文化資料ネットワーク事業は良い取組であり、国内外に向けた情報発信を行っていく際には、民間や地域で観光に取り組む人達とも協力して、役に立つ部分などを見せていくことで、機構の様々な活動の支援者が増えていくと思われる。

(4) 「人間文化研究機構における評価大綱」の改定について (資料 5)

小長谷理事から、資料 5 に基づき、「人間文化研究機構における評価大綱」の改定について説明があり、審議の結果、了承された。

(5) 人間文化研究機構経営協議会から選出する機構長選考会議委員について (資料 6)

機構長から、青柳委員が機構長選考会議委員を辞任されたことに伴い、本協議会の外部委員から後任として弦間委員を選出する旨の提案があり、了承された。

また、機構長から、次回機構長選考会議が 7 月 4 日に開催される旨、報告があった。

(報告事項)

(1) 第 2 期中期目標期間評価結果について (資料 7)

小長谷理事から、資料 7 に基づき、第 2 期中期目標期間における評価結果について報告があった。

(2) 人文系共共拠点等研究力強化ネットワーク (仮称) 設置準備会合について (資料 8)

小長谷理事から、資料 8 に基づき、人文系共共拠点等研究力強化ネットワーク (仮称) 設置準備会合について報告があった。

また、本件に関し、以下の意見等があった。

- ・ 今後の人文系の研究体制を強化していく上でも、重要な取組である。

(3) 基幹研究プロジェクトの評価について (資料 9)

平川理事から、資料 9 に基づき、基幹研究プロジェクトの評価について報告があり、評価結果については委員長名の総評を公表する旨、併せて報告があった。

(4) 平成 28 年度総合情報発信センター評価報告書等について (資料 10)

佐藤理事から、資料 10 に基づき、平成 28 年度総合情報発信センター評価報告書、第 30 回人文機構シンポジウム及び総合情報発信センター研究員 (人文知コミュニケーター) の採用について報告があった。

また、本件に関し、以下の意見等があった。

- ・ SNS をさらに活用することが望ましい。例えば、フェイスブックで情報を発信する際に、英語の文書も添えて発信することで読み手も広がるため、参考にして欲しい。
- (5) 平成 28 年度監事監査報告について (資料 11)
- 小泉監事及び二ノ宮監事から、資料 11 に基づき、平成 28 年度監事監査報告について報告があった。
- (6) 平成 29 年度監事監査計画について (資料 12)
- 小泉監事から、資料 12 に基づき、平成 29 年度監事監査計画について報告があった。
- (7) 大学共同利用機関法人における会計監査人の選任について (資料 13)
- 機構長から、資料 13 に基づき、大学共同利用機関法人における会計監査人として、有限責任あずさ監査法人が選任された旨、報告があった。
- (8) 人間文化研究機構主要会議外部委員について (資料 14)
- 機構長から、資料 14 に基づき、経営協議会等の主要会議の外部委員並びに次回の企画戦略会議を 7 月 10 日に開催する旨、報告があった。
- (9) 平成 29 年度人間文化研究機構経営協議会開催日程について (資料 15)
- 機構長から、資料 15 に基づき、平成 29 年度人間文化研究機構経営協議会の開催日程について報告があった。
- (10) その他
- 委員から、外部の者にとって「機構」、「機関」という名称がわかりづらく、今後機構や各機関をブランド化していく際にこういった部分に少し課題がある旨の発言があった。

以上